

第2回 元住吉ミュージックフェスティバル

2023 Motosumiyoshi Music Festival

参加出演者募集

プロ・アマ・国籍、問わず
応募締切:2022年12月末日
詳しくは info@ontomo.jp



日時 2023年4月8日(土)
午前11:00~午後8:00 **入場無料**
場所 川崎市国際交流センターホール
最寄駅:東急東横線・東急目黒線(元住吉駅) 西口徒歩10分/川崎中原区木月町2-2 TEL:044-435-7000



元住吉、最大の音楽祭。

主催 音楽好きな友の会
共催 Moton Club
後援 「音楽のまち・かわさき」推進協議会
(公財)川崎市国際交流協会
(公財)かわさき市民活動センター
(公財)川崎市生涯学習財団
かわさき市民放送(株)(かわさきエフエム)
(公財)現代人形劇センター
人形劇団ひとみ座
協力 モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合
モトスミ・オズ通り商店街振興組合
井田中ノ町商栄会
木月一丁目町会、二丁目町会、三丁目町会
福街不動産
(2022年10月24日現在)
お問合せ info@ontomo.jp

A Free Magazine that Promotes Regional Revitalization through Music
Mマガジン
2022年12月16日号
2022年11月16日発行
(毎月16日発行)
第94号
発行・編集人:塚田親一
編集:藤田順治/大場明弘
発行:音楽好きな友の会
川崎中原区木月2-21-32
TEL 090-9398-2889
2022-11-16-800 Printing RK

M MAGAZINE

●Motosumiyoshi●Music●Mate●Meet●Memories

音友レコード倶楽部
レコードコンサート
「軽音楽ファンの集い」
「ジャズファンの集い」
12月の開催は有りません。

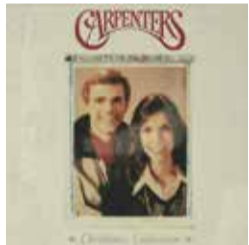


Photo: Yoshiro Yasuda

HAL (ハル):2005年生まれ。
小学校入学と同時にトランペットを始める。
7歳でジャズと出会い、マイルス・デイヴィスのコピーに励むようになる。
ジャズに精通したピアノの先生とセッションをしたり、先生に引き合わせてもらったプロのjazzミュージシャンとの共演や自身のバンド活動など経歴を積み重ね、様々なジャンルの音楽に興味を持つようになり、楽曲制作を始める。
現在、芸術高校に所属し、演奏の幅を広げるため、クラシックを学んでいる。

連載39 そして音楽の旅は続く 18曲しか唄えない、承知で雇ってくれた

ジャズボーカリスト
星乃けい
official website
https://www.hoshinokei.com



▲クリスマス・コレクション/
カーペンターズ

自由が丘のお店で2~3回のLIVEをした頃、六本木のお店でセッションホストの仕事をしている先輩の女性ボーカリストさんからお誘いをいただきました。ステージの半分は彼女が唄って、あとはお客様が自由に参加して楽しめるセッションスタイルです。自由が丘のお店みたいにピアノの周りにカウンター席があるような(昭和だな!)こじんまりした店内。ピアニストの故・新妻さんが経営する「ロスコスモス」というお店でした。私も数少ないレパートリーから歌わせていただきましたが、帰り際に、なんと新妻さんから「ここで唄わない?」ってお声をかけていただき、本当にびっくり。私はまだ自分のLIVEで唄うのが精一杯なのに、セッションのホスト役ということは、もっともっとたくさんの曲を知っていなければ恥ずかしい。そんなお話を新

妻さんにしたら、これからのために、ここで勉強をすればいいじゃないと言ってくれたのです。私を雇ってくれた初めてのお店はこの「ロスコスモス」でした。私が18曲しか唄えないことを承知の上で雇ってくれたので、新妻さんのお気持ちに伝えるためにも、とりあえず広く浅くでいいので必死にレパートリーを増やしました。お客様と曲や歌のお話をしていると教えてもらえることがたくさんあったし、それに新妻さんには私のアレンジされた譜面が見えにくかったようなので、誰にも見やすい譜面が必要なんだなあということにも気づきました。井の中の蛙みたいに、自分のLIVEだけをするということでは得られない貴重な経験を、こんな駆け出しジャズボーカリストにお金を払ってまでもしてくれた新妻さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。もちろん私は、常に努力を怠りたくないで、でも大変な割には上手くいかない日々もあって、悶々とした気持ちで六本木の交差点を渡る夜もたくさんありました。ああ、懐かしいなあ。残念ながら新妻さんは今、天国でピアノを弾いているのでお店はありませんが、六本木に行く度にお店に入っていたビルを見上げてしまいます。先日見上げて「ロスコスモスがあったなあ、

冬になって星も月も綺麗ななあ」と、しみりしていたのですが、見下ろすと街はもうクリスマスですね。クリスマス好きな私は、ついつい色々なアーティストのクリスマスアルバムを買ってしまっていますが、Carpentersの「Christmas Collection」は何度聴いても素晴らしい!もちろんジャズの名盤もわんざかあって、クリスマスソング演じの毎日です。クリスマスツリーを眺めながら、温かいお部屋でいい音楽。至福のひとつ時。懐かしい人の事でも思い出しながら、新しい年を迎えましょうか。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価される。

常連の参加者との共同製作です。
撮影、編集はギター奏者の永瀬晋が担当。
新規参加の前に、ぜひご覧ください。
YouTube配信中。

音友レコード倶楽部PR動画!
「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

島倉 学ミュージックスクール
驚くほど歌い方が上達する
「島倉 学メソッド」
歌が人生を変える
音楽は決して貴方を裏切らない

島倉 学ミュージックスクール
開講10周年記念 ヴォーカルコース発表会
第12回 Dream Live 2022 開催決定!
2022年12月24日(土) 開場 14:00 開演 14:30 入場料 ¥2,000
会場 川崎市国際交流センターホール 出演 スクール在校生/島倉 学
【プログラム】
第1部 Vocal Live
第2部 Musical & Classic Concert
第3部 島倉 学 Solo Concert 2022 ~歌革命~
主宰:島倉 学 主催:島倉 学ミュージックスクール 後援:島倉音楽事務所
TEL 044-567-5940 Mail: info@ms-music-school.com
HP: http://www.ms-music-school.com/

川崎市生涯学習プラザ

第119回 ランチャタイム・ロビーコンサート
●新型コロナウイルス感染防止のため中止となる場合があります。
●日時:2022年12月13日(火)
12:00開場/12:10開演/12:40終了予定
●場所:川崎市生涯学習プラザ
3階302多目的ルーム
●料金:無料
●出演:古渡智江(声楽家・ソプラノ歌手)と「楽らく歌の教室」の皆さん
●内容:古渡智江先生によるコンサートと、生涯学習プラザの歌の教室受講生による合唱です。クリスマス気分をお楽しみください。



●お問い合わせ
(公財)川崎市生涯学習財団
総務室 総務係
ロビーコンサート担当
TEL 044-733-5811
E-mail:concert@kpal.or.jp
川崎中原区今井南町28-41

【来場の注意】
マスク着用、連絡先記入、検温、入場制限がございます。

●予定曲目
・クリスマスソング・メドレー
・いのちの歌
・マイウェイ
・季節の中で
等

等々カ音楽会 2022

八百屋ジャズ クリスマスライブ

チケットのお申し込み、お問い合わせは
090-1125-1510 八百屋ジャズ西郷まで

どんとチャーリー!! Don't Charlie

日時 2022年12月5日(月)
開場 午後6時 / 開演 午後6時30分
会場 玉川区民会館「玉川せせらぎホール」
(大井町線等々力駅下車すぐ)
東京都世田谷区等々力3-4-1
料金 999円(全自由席)

ゲスト出演
●「楽ちん堂」のゆかいな仲間たち
天下大成、ひとみ、あきこ、紅子、かおりん
●手話ハーモニユニット
「サニームーン☆」(元チムコース)
奥山 早苗、結城 明美
名曲に手話を付け、歌い紡いでいくデュオユニット。
●金澤英明 (ベース)
長年、日野皓正カルテットで活躍。
現在、精力的に音楽の活動を展開している。

八百屋ジャズバンド
チャーリー半田 (ボーカル)
星乃けい (ボーカル)
永塚博之 (ベース)
藤橋万記 (パーカッション)
須古典明 (ギター)
HAL (トランペット)
西郷どん (ピアノ)

チケットは八百屋ジャズ、楽ちん堂カフェなどで販売中! 当日券もごさいます。

音楽好きな友の会 (音友会)

第2回 元住吉ミュージック・フェスティバル
2023年4月8日(土)に決定!!
参加アーティストの募集始まる。お問合せ info@ontomo.jp

コロナ禍で開催ができなかった、地域の音楽祭、元住吉ミュージック・フェスティバルが来年四月に実施することが決定しました。音楽好きな友の会が毎年の開催を目標に第1回がスタートしたのは2019年でした。翌年からコロナ感染防止上中止となっていました。地域住民を生の音楽を通してコミュニケーションの活性化を目的としています。

12月のレコードコンサートは会場確保に失敗!

このところ順調にスタッフ共々開催を進めてきましたが、落とし穴がありました。会場確保の抽選で最初のジャンケンで負けてばかり。その後のあみだくじ、昔からくじ引きには弱くどなたか強くなる方法のご教授をお願いします。音友レコード倶楽部を楽しみに参加していただいている皆さんには大変申し訳ありませんが、頑張ります。
●開催日時:12月は中止です。
※ 次回1月の会場は川崎市国際交流センター・ホール。詳細はHPをご覧ください。

想い出の「クリスマスソング特集」

12月は恒例の「クリスマスソング特集」プログラムですが、残念ながら開催不可になりました。



「クリスマスソング特集」は参加者からの提案で「ノンジャンルDJ」と、皆さんの持ち寄りタイムがメインでコンサートをしています。
まずビートルズ・クロスビー定番の歌で「ホワイトクリスマス」から始まり、昭和、平成、令和などの和洋折衷の楽曲を聴きながら一期一会を楽しんでいます。残念なことに「ノン・アルバム」です。ぜひ2023年は音楽言語の「おたまたまくじ」で繋かれた落ち



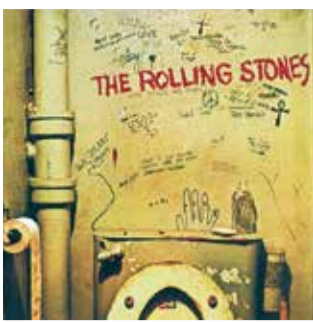
着いた世界が来るよう願うばかりです。"What A Wonderful World" この素晴らしい世界のように。

連載27 団塊じいのジャケ買い遍歴

2種類あるジャケット、ベガーズ・バンケット 神山 昇



▲白地に金緑の、まるで結婚式の招待状のような超品の、気取ったデザイン。



▲「トイレの落書き」の写真は、映像監督のラリー・フェスティンとニューヨークのデザイナー・トム・ウィルクスによってデザインされた。

1968年の暮れにリリースされたから、僕が手に取ったのはその半年以上後だろうか。まず、この金緑のすまじレコードジャケットは一瞬、ビートルズのホワイトアルバムを意識して模したな、と勘繰った。それにしてもあのローリング・ストーンズにしてはあまりにも気取ったジャケットだと思った。しかし、中身はサイケからフォーク調からやはり本筋のロックと楽しませてくれる秀逸なレコードだ。

変わらずにジャケットデザインが180度転換、汚いトイレの汚い壁の落書きをあしらったデザインとなった。

実はこの汚い?デザインが本来採用されたデザインだった。しかし、あまりにも如何わしいとテッカ・レコードが拒否、結婚式の招待状となった。

手にした僕はそんなことも梅雨知らず購入してしまったが…。

ルズの紛い物と思ひながら手にした僕は、その中身に対してはまるでガラタ市のような様々なテーマの楽曲が収められていて十分に体を揺らすことができたのだ。だから決してそうは思わなかった。そのジャケットの気取りはきつと彼らのジュークであると思って逆に笑えたものだ。確かに、本来のジャケットは中身とじっくりくると、壁の落書きを読むとジョンとヨーコのことも書いてあるように意外と面白いから、なんとも言えないのだが…。

レコードジャケットのデザインは、その楽曲のイメージを醸し出すとか、アーティストの心情を表すとかをテーマにするから面白い。同じ広告デザインでもこれが化粧品のパッケージであればトイレの落書きは不可能だ。得てして、広告主のクライアントは自分のことを言いたいばかりに文字(フォント)を大きく、これもあれも注文するが果たして誰がそれを身見て、読むのどうかと考えると、字を大きくすれば良いのではないし、説明をとことんすればいいわけでもない。手に取ってくれなければチラシもパッケージも、消費者は見向きもしないということだ。

それから15、6年経ってから中身は

連載03 太鼓叩きのよもやま話

キューバのこと 藤橋 万記

藤橋 万記



藤橋 万記(ふじはしまき): パーカッションニスト 横浜生まれ、千葉育ちのパーカッションニスト。キューバ渡航歴は10回。「歌心あるハッピーサウンド」がモットー。アフロキューバンとジャズをミックスさせた自身のリーダー作品「Got a Match」を2021年リリース。藤橋万記ショップサイトはこちら。https://makiconga.stores.jp/

こんには、パーカッションニストの藤橋万記です。こちらで3回の連載を依頼されて、早いもので今回が最終回です。お読みくださってありがとうございます。

キューバへは今までに10回ほど行きました。行くとき毎回1~2ヶ月滞在。2020年の1月には、首都ハバナで開催された国際ジャズフェスティバル、International Jazz Festival「Jazz PLAZA2020」に出演して、キューバ人ミュージシャンとも沢山共演しました。

キューバではこういう音楽祭が規模も大小様々ですが、沢山催されています。

ラテン諸国で愛される「Bolero(ボレロ)」と呼ばれるゆったりとした4拍子のバラード音楽はご存知ですか? 2000年頃に世界的ヒットとなった映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」の中でも使われている「Veinte Anos(バインテ アニョ)」や、「Como Fue(コモ フェ)」「Sabor a Mi(サボール アミ)」など、名曲がいっぱい。哀愁漂

う何ともいえないメロディに日本でもファンが多いかと思うのですが、一見地味そうなのボレロをフィーチャリングしたフェスティバルが、ハバナで開催されていた事がありました。

出掛けの事あまり好きじゃないんだらうなと思っていたホームステイ先のおばあちゃんが、ある日お洒落をしていて、どこに行くの?と聞いたら、ボレロフェスティバルが開催中なんだよ、知らないのか?と。一緒に行くか?と。実は、若かりし自分はその頃ボレロに興味無く一緒に行かなかったのですが。。。おばあちゃんがルンルンと出掛けていった後ろ姿は良く覚えてます。今思えば一緒に行っておけば良かったかな。。

また、PercusionとCubaを足して、PerCuba(ペルクーバ)というフェスティバルが開催されていたこともあり、パーカッションのお祭り、ですから、ジャンルは様々。音大生のような若者が小太鼓1つの為に書かれた現代曲を演奏してたかと思うと、バンド編成の賑やかなラテン音楽が始まった

り。しっかりとチャンギートのような大御所もプログラムには名前を連ね、参加者の年代も幅広く、色んなコンサートを毎日梯子して聴き回ったものです。また、首都ハバナから離れて、サンティアゴ・デ・クーバという街に滞在していた時には、サルサの元になった「ソン」のお祭り遭遇したことも。このサンティアゴ・デ・クーバは、ソンの生まれた街で、フェスティバル期間じゃなくてもいつでもソンを聴くことは出来るのですが、このお祭り期間は、それはもう、あちこちで、夕方から夜中まで色んなバンドが奏でます。街の中心にある公園にステージが組まれて野外演奏が始まったり、時には、道の真ん中にステージが組まれ、車は通れなくなり、道路に観客が溢れ、両脇の建物の窓からもその様子を覗く人がいたり。少し休憩しようと思っ

て入ったカフェでも演奏が始まったり。街が誇る立派なコンサートホールももちろんお祭りの会場になっていて、コンサートホールで座って聴くのもステキだなあと思ったり。こうやって幾つか自分が遭遇したフェスティバルを書き出してみました。そういえば、こういったフェスが開催されていないと、日々生演奏は各地で身近に行われていて、毎日梯子してライブを見て回るのはキューバではいつもの事でした。そう、いつ行っても街に溢れる音楽を体験出来ます。そして、だからこそ、フェスティバルの開催を意識しないで滞在しても、フェスティバルに遭遇してしまう、のですね。こんな風に、非日常のお祭りが、まるで非日常ではなく、これが日常、のようなポジションで存在している事が、キューバの魅力です。

ここまで書いて思ったのは、音楽だけではなく、絵画や写真、芸術作品もそうかもしれせん。街を歩いていけば、アトリエをよく見かけるし、作家さんが自分のブースを作って通りに作品を沢山並べている、そんな創作の熱量を

ピンピンに感じます。文化・芸術との距離感が心地好いし憧れでもあります。

こうやってこの原稿を書くに当たってキューバの事を思い返していたら、パーカッションや自分の話というより、まるで観光大使にでもなったつもりでキューバの紹介になってしまいました(*^^*)

ステキな機会をありがとうございました。さようなら♪



音友レコード倶楽部Report Jazz Date 2022年10月コンサートの報告

60有余年前も今もジャズに生きているベニー・ゴルソン 吉井ちづ子

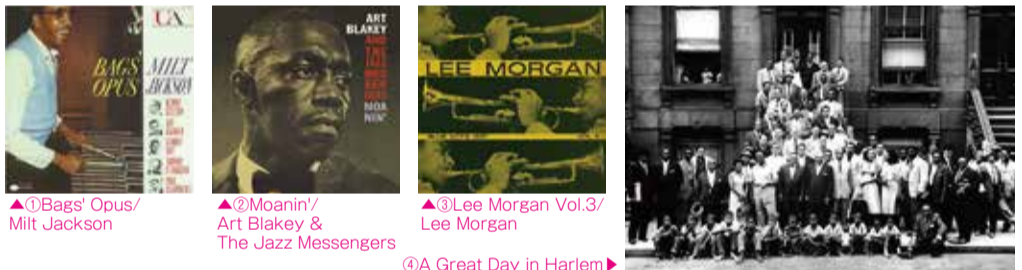
10月の音友レコード倶楽部は久々の「Jazz Date」開催で筆者のDJでベニー・ゴルソンの作品を取り上げ、代表曲のいくつかを鑑賞しました。1929年生まれのベニー・ゴルソンは、今なお健在でしかも音楽活動も続けている優れたジャズ・サクソフォーン奏者であり、1950年代から60年代にかけてのハード・バップ最盛期の代表的なジャズ作曲家、編曲者の一人です。優れたジャズマンたちが百花繚乱のごとく腕を磨き合っていたジャズの聖地フィラデルフィア出身で、1953年以降、ベニー・グッドマン、タッド・ダモロン、ジョニー・ホッジス、デジー・ガレスピー等のバンドを経て、1958年にアート・ブレイキー率いるジャズ・メッセンジャーズに参加し、同バンドのスタイルに多大な影響を与えました。1960年代、

70年代は、スタジオ・ミュージシャンとしてテレビ番組「ミッション・インボシブル」[M*A*S*H]など音楽を担当。その後再びジャズ界に復帰しています。

ゴルソン曲の持ち味と言えば、「ウィスパー・ノット」(写真①)や「アロング・ケイム・ベティ」(写真②)に見られる主旋律のメロディのメリハリの良さどキメのシャープさ、贅肉感のない曲運びです。また天才トランペッター、クリフォード・ブラウンの死を悼み彼に捧げた、渾身の追悼曲「アイ・リメンバー・クリフォード」(写真③)のような、心奥に響いて捉えて離さない美しいバラードも魅力です。今回のDJではその他、初期の傑作「ステイブルメイツ」をマイルス・デイヴィス・クインテットで、アート・ファーマーとのジャズテットでは軽快な「フェアーウェザー」を、そしてゴルソン

のセクステットで「アウト・オブ・ザ・バスト」の6曲を聴きました。

さてゴルソン特集では「A Great Day in Harlem」と題した1枚の写真を紹介しました(写真④)。これは1958年8月12日にハーレムで撮影され、翌年1月号のエスクワイヤ誌に掲載された総勢57名の名だたるミュージシャンたちの集合写真です。現在も存命なのはゴルソンとソニー・ロリンズの2名。現役を続けているのはゴルソンただ一人です。ゴルソンの公式ホームページ(https://bennygolson.com)の表紙にはこの写真が大きく掲載されています。撮影から60周年記念のテレビ番組にはゴルソンも出演し、撮影時の動画も流れますのでぜひご覧ください。



▲①Bags' Opus/ Milt Jackson ▲②Moanin'/ Art Blakey & The Jazz Messengers ▲③Lee Morgan Vol.3/ Lee Morgan ④A Great Day in Harlem▶

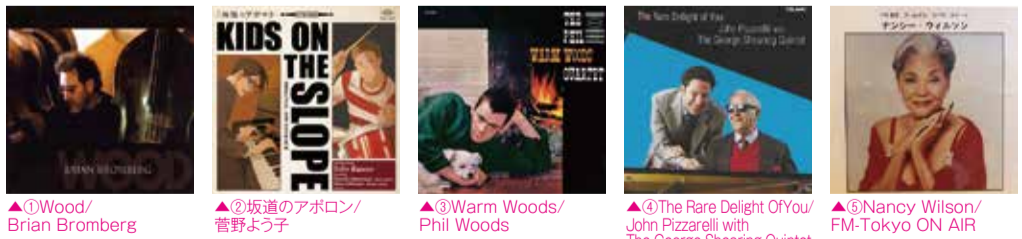
持ち寄りタイムはジャズで!

久しぶりの「ジャズの集い(JAZZ DATE)」の持ち寄りタイムは、珍しくジャズ一色であった。トップは超技巧派で知る人ぞ知る渋いベーシストのブライアン・ブロンバーグウッド/ブライアン・ブロンバーグ(写真①)よりビートルズの名曲「カム・トゥギャザー」から始まった。ウッドベースによるソロでメロディとメロディの間にベース本体を叩きリズムを刻む奏法であった。次はジャズを題材としたアニメ映画「坂道のアポロン」のサウンドトラック(写真②)よりジャズのスタンダードナンバーである「モーニン/マイルストーンズ/いつか王子様が」の演奏を聴いた。このアニメ映画の音楽プロデュースは東日本震災の復興支援ソング「花は咲く」を作曲した菅野よう子で劇中の演奏には松永貴志(ピアノ)、類家心平(トランペット)、石若駿(ドラム)などが参加している。アニメのあらすじはジャ

ズ演奏を通じ仲間となった高校生の友情、葛藤そして恋愛模様が描かれているとの事であった。Mマガジン(2022年2月号)で筆者が紹介した ジャズ・アニメ「ブルー・ジャイアント」と通じるものがある様だ。3番目は筆者が新旧アルバム・サクソ奏者の聴き比べとしてデイヴィッド・サンボーンとフィル・ウッズを取り上げた。「ハイダウェイ/デイヴィッド・サンボーン」より「リサ」を音数は少ないがむせびなく様なアルトの音はサンボーン特有の音色が感じられる。片や「ウォーム・ウッズ/フィル・ウッズ」(写真③)より「ワルツ・フォア・アブラー・ワイブ」。この曲はフィルの奥さんであるチャンに捧げた曲でテーマはワルツだが間奏部分は素晴らしいアドリブの応酬となっている。4番目はジョージ・シアリング・クインテットの伴奏による「イフ・ドリームス・カム・トゥルー」をベギー・リーのハスキーな女性

藤田 順治

ボーカル「ビューティー・アンド・ザ・ビート/ベギー・リー&ジョージシアリング」とジョン・ビザレリの甘ったるい男性ボーカル「ザ・レア・ディライト・オブ・ユー/ジョン・ビザレリ・ウィズ・ジョージ・シアリング・クインテット」(写真④)で聴き比べた。最後は昔、懐かしいFM東京の番組「ゴールデン・ライブ・ステージ」エア・チェック録音(写真⑤)より1972年ナンシー・ウィルソンが自己のトリオを引き連れ、来日した際のライブ演奏を聴かせてもらった。放送司会者は青木誠。演奏はトリオのメンバーが原信夫とシャープス&フラッツに参加しての「ハニー・サックル・ローズ/パット・ビューティフル」等を次々とエネルギーに歌っていた。50年前の2T/38cmで録音したFMオンエアーの音が今でも十分聞き答える音で鑑賞出来るのは素晴らしい事だった。



▲①Wood/ Brian Bromberg ▲②坂道のアポロン/ 菅野よう子 ▲③Warm Woods/ Phil Woods ▲④The Rare Delight Of You/ John Pizzarelli with The George Shearing Quintet ▲⑤Nancy Wilson/ FM-Tokyo ON AIR

連載-Take 18 あの『フェスティバルの想い』を再び! 塚田 親一

2020年の開催予定だった幻の「第2回元住吉ミュージック・フェスティバル」は110組以上のアーティストの応募があった。予想以上に審査も大変だったが、筆者の友人で「wing Esquire Orchestra(SEO)」の奏者として、あるいはビッグバンド・アレンジャーとして多くの曲を手掛けている伊津野忠里さんに審査協力をお願いし、順調に事を

運べた。応募者は川崎はもちろん、東京、埼玉、静岡に跨り、中国のシンガーソングライターからビッグバンド、和太鼓ルーパ迄にも及んだ。

しかしコロナ感染防止対策に従い、遺憾にも中止となってしまった。

審査を通った16組のアーティストの皆さんに対し、本当に残念で申し訳なく思い、記念となるもの考えた。

それは「出演予定者の記録」と題して、応募曲から選曲した楽曲をCDにしてプレゼントした。それが大変喜ばれ、筆者の慰めにもなった。

さて、来年の4月、ブランク3年目の「第2回元住吉ミュージック・フェスティバル」にあの時のアーティストさんは、再び出演して頂けるだろうか。我が旧車屋のギアを上げなければならぬ。

連載75 「くじら座」日記

三方よし

牧野 ぐみ

水産系シンガーソングライターの牧野ぐみです。最近「ファーストベギン!」というテレビドラマに注目しています。実話に基づいた漁業改革の話なのですが、第一話で「三方よし」という言葉が出てきました。「三方よし」とは江戸~明治時代の近江商人による考えで、三方とは「売り手」「買い手」「世間」の3つを指します。売り手の利益だけではなく、買い手の満足と社会貢献全てが伴ってこそよい商売であり、現在にも受け継がれている経営指針です。

私達が音楽活動をする上でもこうでありたいと気づかされました。これまでありがたいことに大小様々なステージに立たせて頂き、元住吉ミュージック・フェスティバルのようなイベント時には裏方も担当させて頂きました。表舞台に立ちたい演者は自分も含めたく

さんいます。先日誕生日を迎え今後の人生と音楽活動を考えた時に、自身が今後も続けて行けるようなベイができていくか(自腹で持ち出しで一時的に活動するのは誰でも簡単だと思っています)、応援してくれているお客様の満足に繋がっているか、またお店や地域にとっていい活動ができていくか、という視点を大事にしてゆきたいと思いました。来年は元住吉ミュージック・フェスティバル(略してMMF)も開催予定なので、コロナ禍ゆえの課題はありますが成功に向けて尽力します。

さて、この年末を持ちまして私はMマガジン執筆を引退させて頂きます。今後はMMFもありますし、現場の仕事にその分注力したいと考えています。こちらに関してはくじら座の憲人君が毎月担当してくれる予定です。長きに



渡ってご愛読ありがとうございました。よいお年をお迎え下さい。

連載55 Course: Addicted to Guitar 手っ取り早くジャズっぽいフレーズ その1 デミニッシュ 永瀬 晋

お世話になっております。今月もまたギターを始めたばかりの方にお勧めなギター小ネタをソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。前回までは少々Jazzを離れたネタの投稿を連続しておりましたが、今回久々にジャズに戻ってみたい。とにかく自分の教室の生徒さんにもJazzのイメージを聞くことにか「難しそう」というコメントが良く聞かれますが、今回はそんな方向けに「手っ取り早くジャズの雰囲気を感じよう」というフレーズの紹介をしていきたいと思います。皆様II-V-Iという言葉は聞いたことあるでしょうか。これはコード進行を表す方法で使われていて、「Jazz」っぽさを出す元になっていると言われていま

す。かなり簡素なお話しますと、II-V-Iはコード進行を表してありまして、II(少し不安定)-V(かなり不安定)-I(安定)という進み方を表しています(コード進行)いかに不安定と安定を表現するかプレイヤーの腕の見せ所ですね。この進行はジャズスタンダードを解析していくと曲中に多く存在しており、II-V-Iをいかに美しく弾くかがJazzのソロにおける醍醐味といえると思います。最初にややこしい話をしてしまいました。が本題に行ってみましょう。譜例では



ソウリーヴ・ミュージック・スクール Souleave Music School http://souleave-music.com/ 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分 チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992 レッソンは8:00~22:00開始迄、詳細は要連絡

MOTTON CLUB 地域の、全国のミュージシャン、そして音楽活動に関わるあらゆる人をネットワークしたい。演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動を後押ししていくことが目的です。元住吉から世界に向けて配信して行きます。アーティストメンバー募集中!! 現在、登録アーティストメンバーが演奏動画を配信しています。演奏者の方で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画を募集しています。(近郊で企画、運営可能なスタッフメンバーを募集中です)